

I: コンスウェアについて、思う事を教えてください。
吉: そうですね。他のメーカーさんと違ってオリジナリティが独特だなと思います。実際、数年前は、ユニフォーム規定が緩く、KOUNCEロゴを前面にデザインしたユニフォームを着用していたので県外の大会に出場すると、「それどこのメーカーなの？」と声をかけられたり、チーム名が、FRじゃなくてKOUNCEと間違えられたり(笑)、県外のチームにとっては新鮮なのではないかな。

長: 自分達は、FRに乗った感じが(笑)。あ、面白いメーカーだなと思って。自分たちは、チーム結成当時、ユニフォームを持っていなかったから、KOUNCEでなら自分達のチームカラーを存分に引き出してくれるなと思って最初のユニフォームを作ったのを覚えています。

I: KOUNCEの良さを教えてください。

吉: オリジナリティに溢れていて、ウェアに関しては満足しています。デザインのな部分でも年々パターンが増えていて、他のメーカーとも見劣りしないくらいデザイン性なのかなと感じています。色々なメーカーのウェアを持っているんですけど、フットサルで着る時にはほとんどKOUNCEしか着ていないんですよ。当たり前のようにKOUNCEをこ何年着ています。

長: ですね。デザインの自由がきいて、チームに合わせたウェアが作れるので、作るまでがまた楽しかったりします。で、生地にもこだわってくれるので、練習をする時ですけど、寝る時も着ることがあります(笑)。そして、何かと対応が早い。早さも大事ですね。

は、深夜近くからしています。それでも、練習に選手がしっかりと集まって質の高い練習をされています。このように意識の高いチームが、結果を出しているように感じます。

長: 私のチームは、FRより数年遅れて九州リーグに参戦させてもらっていますが、一旦、県外から飛び出して、直接、高いレベルを知ると、このレベルで勝りたいというモチベーションが出てきます。それに準じて意識も高まる。その相乗効果じゃないですけど、鹿児島県のフットサル界全体が、より高いレベルのチームをまずは見て、肌でそれを知るとも大事かもしれません。

吉: ですね。今、九州リーグでやっている選手達というのは何かを犠牲にしてやっている選手。チームが多いと思います。もちろん、仕事があつてのフットサルで、働かなくては何かを犠牲にしてもやっているという意識の比率です。一日の中でどれだけフットサルのことを考えているのか、九州リーグに入つて、他県のチームがどういう練習をやっているのか、勝つために何が必要で、そこをどれだけやっているのか...と。フットサルが生活の一部になるくらいにならないとフットサル人口が多くなって結果がついてこない。そういうのは感じます。その差っていうのは見えない部分だけに大きいと思います。それと...これは、鹿児島島の土地柄なのかわからないですけど...チーム間の移籍が少ないですよね。

長: ですね。チーム内で、一人一人だけの競技向上志向じゃ限界が見えてくることもあります。確かに、チームで高いレベルに行ければ一番良いです。

かごしまフットサル界事情

近年、フットサルの普及と共にフットサルウェアも大きな進歩と変革を遂げています。鹿児島フットサル界で広がりを見せているKOUNCE(コンス)。KOUNCE-Japanは、韓国のスポーツウェアメーカーKOUNCEの日本総代理店として鹿児島より始動し、これまで様々なウェアを手がけているメーカーです。その広告塔でもあるkagoshimaFR主将吉利周作さん(以下:吉)、E.R.S代表長濱智さん(以下:長)に、KOUNCEについて・鹿児島のフットサル界についてお話を伺いました。

I: KOUNCEに対する要望がありましたら教えてください。

吉: やはり、個別購入の場が欲しいです。KOUNCEショップがあれば良いな...と思います。へ*現在KOUNCEはほとんどのウェアが同アイテム5枚以上*チーム受注生産システム

長: ですね。KOUNCEは、チーム単位での注文と制作をしてくれるので、チームとしてのオリジナルウェアは満足いくのを作っていただけなのですが、個人がフラックと衝動買いする場が無いのが残念です。この場を借りて昇さんへ*KOUNCE・Japanの代表で、両氏とも親交が深い)に、お話をだして欲しいですね。

I: 鹿児島県フットサル界を取り巻く競技志向チームの現状と問題点について教えてください。

長: 鹿児島の場合、やはり、フットサル施設不足の問題です。専用施設じゃなくても構わないので、学校の体育館とかでも...貸してくれる学校もあるのですが、まだまだ浸透していません。逆に言うと、我々が小・中・高校にフットサルをアピールしていく必要があると思います。

吉: そうですね。環境もですし、選手の意識も大きな問題かもしれません。一時期、フットサル人口率が鹿児島県は高いと言われていましたけど、競技志向でフットサルを本気でしている人は少ないかもしれません。例えば、専用施設を持ち、環境が整っているチームにしても、普段人が集まりそうな時間帯は一般のチームに開放して、チーム自体の練習

けど、それが叶わない場合は、積極的に移籍するのもありです。逆に、このタイプの選手が欲しいから声をかけてみようとか、そういう動きが少ないです。例えば、一人でも移籍して、一回高いレベルを見れば、またフットサルに対する考え方が変わりますし、将来的にそれをチームに持って帰ってくる。それもアリですね。もちろん、クラブ間を通してのフェアな移籍が前提ですけど。

吉: チームの底上げをするというのは、同じ時間。選手達が過ごしてっていうのは一番大事なことなんですけど、やはり、新しい即戦力を入れてチームの活性化を図って、底上げをしていく。結果を出すことで他のチームに魅力を植え付け、あのチームに入りたい、あのチームとやりたい、この選手と対戦したいっていう相乗効果。それでまた人がどんどん入ってくるというのが理想だと思うんですけど、それが出来ているチームというのは、常に強いし、常に高い意識を持ってやれていると思います。

I: 最後に、何かお伝えしたい事があればお願いします。

吉: そうですね。まずは、現役である以上、FRが九州リーグでしっかりと結果を残せるように頑張っていきます。今、自分に出来る事をしっかりとやっていきたいです。

長: 色んな課題はありますけど...今日のような感じでフットサルを語る場を増やしていきたいですね。色んな意味でそれが解決の第一歩のような気がします。



E.R.S(九州フットサルリーグ2部)代表

長濱 智
Satoshi Nagahama

▶ 1972.6.30生まれ。血液型B型。
前所属チーム『GOOD STARS』。
フットサル歴14年。



2008九州リーグ開幕戦

お気に入りのKOUNCEウェア/



(左) 2006・チームTシャツ
(右) 2008・ホームユニフォーム



2008九州リーグ開幕戦

お気に入りのKOUNCEウェア/



(左) 2005・移動用ウォーマー
(右) 2005・アップウェア

kagoshimaFR(九州フットサルリーグ1部)主将

吉利 周作
Syusaku Yoshitoshi

▶ 1975.9.17生まれ。血液型AB型。
前所属チーム『LEONE鹿児島』。
フットサル歴8年。

